

兒玉貞平 版画家・洋画家

兒玉貞平は、『近代日本版画家名鑑』（版画堂）によれば、1898(明治31)年、大分県に生まれ、葵橋洋画研究所に学びました。1927(昭和2)年、第8回中央美術展に油彩画《洗足風景》を出品し、初入選します。続いて翌1928年、第3回1930年協会展に《参道風景》《白日》が入選。以降各種の展覧会に油彩画を出品しますが、独学で習得したと思われる石版画や木版画も手掛け、1929(昭和4)年の日本創作版画協会第9回展に石版画《裸婦読書》《山手の工場》で初入選を果たして以来、版画作品も数多く手がけます。版画家・藤森静雄(1891～1943)は、日本水彩画会第16回展に出品された兒玉の石版《雨の丸ビル》を見て「兒玉貞平君の《雨の丸ビル》は石版とは思えない柔らかい線の動きを面白く思った」と『日本水彩画展版画小惑』（版画CLUB第1年第2号）で評しています。

その後兒玉は、1931(昭和6)年に新発足した「日本版画家協会」に会友として参加。翌1932年に会員に推挙され各展覧会にも作品を出品していきませんが、1941(昭和16)年8月20日、東京で亡くなりました。

本作品は、版画家としても活躍した兒玉が、美術展で初入選した記念すべき作品です。作品のタイトルと描かれている風景から、大田区の洗足公園であると推定できます。また当会保存文書『財産臺帳』によれば、1929(昭和4)年10月、当会の茂木和三郎理事から開館時に寄贈を受けた作品です。 [協力] 佐々木征氏

